

河北新報

10月20日(土)

河北新報社

仙台市青葉区五橋1-2-28
(郵便番号 980-8660)

「東」は、未来



電話 (022) 211

読者相談室 1447

報道部1127 販売部1304
スポーツ部1130 営業部1318
夕刊編集部1146 営業管理部1312
生活文化部1132 事業部1332
総合案内 (022) 211-1111

ご購入申し込みは
0120-09-3746

女性の視点で復興探る

男女共同
参画会議
仙台で専門調査会



大規模災害時の男女共同参画の在り方を探った
専門調査会＝仙台市宮城野区中央市民センター

国の男女共同参画会議(授)を仙台市で開催した。は19日、専門調査会(会)防災や復興に男女共同参画長・鹿嶋敬美実践女子大教一画の視点を取り入れるた

め、東日本大震災の被災者支援に携わるNPO関係者らから震災で浮き彫りになった課題などを聞き取った。

専門調査会の地方開催は初めて。参画プランニング・いわて(盛岡市)の平賀圭子理事長、石巻復興支援ネットワーク(石巻市)の兼子佳恵代表らを招いた。調査会委員を務める奥山恵美子仙台市長も参加した。平賀理事長は被災地に物資を届けた経験を振り返り、「災害弱者の二

ズをくみ取り、被災地と支援する側をつなぐ人材が不可欠」と指摘。兼子代表は「上から目線の支援ではなく、職能訓練など被災者の潜在能力を引き出し自立を促す支援が求められる」と語った。

奥山市長は「避難所運営に女性の視点を生かす必要性は認識していたが、対策や訓練は十分ではなかった」と反省し、「女性はコミュニティーを維持し再生させる優れた能力を持つ。仮設住宅での孤立防止対策などに生かしたい」と話した。調査会委員は仙台市内の被災地を訪れ、仮設住宅の住民とも懇談した。